

CONSERVATION VOLUNTEERS **25**

Vol.

発行：特定非営利活動法人日本環境保全ボランティアネットワーク（略称：JCVN）

特集	ボランティアリーダー研修@オンラインのご紹介	p2
	各研修の報告	p3
	研修参加者感想	p5
連載	台湾の保全活動 第1回「ウシと一緒にコメづくり」	p6
	事故事例コラム	p7
	お知らせ	p8

特集 ボランティアリーダー研修@オンラインを開始

■はじめに

朝廣和夫（JCVN理事長／九州大学芸術工学研究院環境デザイン部門）

春の訪れとともに皆様はいかがお過ごしでしょうか。コロナ禍に加え、戦禍も加わり、地球温暖化も指摘され、世の中の不透明さが増すように感じられるこの頃です。このような時は、庭の畑や、野山に出て、汗を流されてはいかがでしょう。自然は手を入れれば応えてくれます。家族や気の知れた仲間と野菜を作ったり、森の手入れをすることは、心が落ち着くだけでなく、食糧の自給、社会の安定につながります。生活の再検証が求められる時代と考えます。

欧米では、このような非常時に備え食料自給率の確保が進められてきました。日本においては2019年のカロリーベースの試算で38%（農林水産省）と言われていました。しかも、98%の自給ができていた米は、人の摂取カロリーの二十数パーセントにとどまっており、その他の多くは輸入に頼る家畜（飼料を輸入）、油、小麦、砂糖などです。

いずれも自給率は20%以下です。今後、進むであろう物価の高騰への備えは必要と考えます。

さて、JCVNは、このような状況の中で二つのアクションを行うことといたしました。ボランティアリーダー研修と会誌のオンライン化です。私たちは少人数での対面の現場活動や研修を大切にしており、今もその基本的な考え方は変わりません。それは、現場でのコミュニケーション、技術、そして、活動の質を大切に、そのような社会の普及を目指しているからです。今回、コロナ禍での一時対応という側面はありますが、地域を超えて、そのような理念を共有できる人とのつながりを求めていきたいと考えました。

本誌では、研修の報告に加え、巻末で会誌の送付先（メルマガ）の登録などをお願いしております。ぜひ、ご検討ください。

■ ボランティアリーダー研修@オンラインのご紹介

朝廣 和夫 (JCVN 理事長/九州大学芸術工学研究院環境デザイン部門)

● JCVN のチャレンジ

JCVN ではこれまで、対面で『環境保全リーダートレーニング研修』を実施してきました。この、コロナ禍を受け、下記の観点からオンライン研修の実施に踏み切りました。

- ① 地域を超えてサービスを提供
- ② 定番プログラムのオンライン化
- ③ 75分で実施
- ④ Peatix を用い、費用はワンコイン
- ⑤ 運営サポートスタッフの配置

まず1つ目。JCVN は、『日本 (JAPAN)』という文字を先代の遺志を胸に団体名を冠しております。ここの理事は、地域を超えて広く、それぞれの活動の影響を及ぼしていますが、団体としては限られていました。オンライン化は、福岡県外の参加者との繋がりが増えることが大きな魅力でした。2つ目。定番プログラムは、各理事が10年以上実施してきている内容で、『対面内容をオンライン化する』というの、各講師として大きなチャレンジとなりました。そして、3つ目。オンラインでの時間は、『気軽に参加できる長さ』を重視しました。参加者層を広く捉えたいし、必要とされる人にはリピーターとして参加してもらいたい。75分で1講師担当とすれば、理事の負担が軽減され、ワークライフバランスの向上にもなります。4つ目に費用は、500円のワンコインとし、チケット販売サービスを行う Peatix を用い有料のオンラインサービスとしました。最後に、比較的激務の講師陣が新しい活動を実施するにあたり、広報から当日のオンライン運営をサポートいただくスタッフを配置し、実施にあたりました。

● 実施プログラム

研修のタイトルは、
ボランティアリーダー研修@オンライン
～環境保全・農林業支援・災害復興の現場活動のために～

研修の対象参加者は、JCVN メンバーが活動している里地里山、都市林、コンポストのボランティアに留まらず、『農林業支援』『災害復興』という語を加えました。昨今の時代に即したいという思いからです。

全4回は、下記の様な並びで行いました。

- 第1回「ツールトーク」11/18、講師：小森
- 第2回「チームビルディング ～オンラインで関係づくり～」12/16、講師：志賀
- 第3回「リーダーの役割」1/20、講師：朝廣
- 第4回「ボランティアと地域との関係」2/17、講師：平

開催日は平日の木曜日の18:30～19:45の75分です。プログラム並びについて、『なぜ、最初にツールトーク・・・』ということをおぼれらると想定します。オンラインは、参加/不参加があることを前提に、通常講座を踏襲しないランダムにすることとしました。これは、『Tips (活動のコツ)』として、この75分を楽しんでもらえればよい、ということにしました。

● 4回のチャレンジを経て

オンライン研修の振り返りから、下記の点にまとめました。

- 75分のメリットあり
参加者、講師共に気軽に参加できる時間でした。内容に限りはあるが、オンラインと要割切り。
- スタイルの洗練が必要
団体の紹介、次回の告知など、講座の前後に行うルーティンの準備、スタイル化が望ましい。
- 運営サポートスタッフの助けは絶大な
なじみのない Peatix、Zoom 研修。広報を含めノウハウに通じたスタッフの存在は安心・安全。
- 遠くから、多様な参加者を確保
福岡県にとどまらず、関西、関東からの参加者を得て、比較的、満足という評価をいただいた。老若男女、多様な参加者との出会いも魅力。
- 少人数の研修を維持、広報に課題
JCVN 研修はコミュニケーション重視のため10名前後がベスト。しかし、広報で参加者は伸びず。団体連携や SNS 活用が課題。

『現場』『対面』ではありません。この二つを重視してきた JCVN として、オンライン研修は『まやかし』にならないか。そのような自己批判を胸に行ったチャレンジと言えます。オンライン研修は『現場リーダーのコツ』を『定期』に『気軽』に『どこでも』、『75分』、『ワンコイン』で得られる、またとないサービスであると言え、今後も継続です。2022年度情報は8頁をごらんください。

■第1回「ツールトーク」

小森耕太（JCVN理事／認定NPO法人山村塾理事長）

現場リーダーには、人前に立ち、分かりやすく、短く、笑顔で伝えるスキルが求められます。JCVNの定番メニュー「ツールトーク」は、現場作業を想定し、リーダーとしてノコ、ナタ、スコップ、ハサミなどの作業道具の使い方を説明するトレーニングです。

<当日の流れ>

- 18:35 開会・オリエンテーション
アイスブレイク（自己紹介・ストレッチ）
18:55 ツールトーク実習
19:40 振り返り、19:50 終了

* * * * *

相手との適切な距離をつくり、道具を手に持ち、身振り手振りで行ってきた本プログラムを、まさかオンラインで実施する日が来るとは……。いろいろな不安の中、福岡、神奈川、千葉などから計7名の方々にご参加いただき、ほぼ予定通りに実施することができました。

運営面の反省として、オリエン時の JCVN 紹

介やオンラインならではの諸注意に思ったよりも時間がかかったこと、講師が PC とスマホの2つのカメラ操作を行い、少々バタついたことがありました。また、ギャラリー/スポットライトのビューの切替えが多かったため、タブレット参加の方には、こちらが意図した画面がうまく表示できていなかったかもです。一方、各自が説明する道具を持ち寄ったことと、ブレイクアウトルームを活用して少人数グループでの実習を手早く行えたことは、オンラインならではの良さだと思いました。

今回は講師と事務局の2名体制でしたが、もう1名カメラ担当がいれば、オンライン20名程度での実施が可能だろうと思われま



■第2回「チームビルディング ～オンラインで関係づくり～」

志賀 壮史（JCVN 理事／NPO 法人グリーンシティ福岡理事）

ボランティアの現場ではお互いが打ち解けたり、関係をつくったりすることが大切です。

第2回では、オンラインでできるゲームやアイスブレイクを体験しつつ、対面の場にも共通する声かけや目配り、チームビルディングの考え方などについて考える時間を持ちました。

<当日の流れ>

- 18:30 あいさつと JCVN の紹介
18:35 オンラインでできるアイスブレイク
・漢字一文字自己紹介
・オンライン借り物競走
19:20 グループ実習「今年の漢字」
19:35 ディスカッションと補足のレクチャー
19:50 おつかれさまでした

* * * * *

これまで現場作業や対面でのワークショップをやってきましたが、まだまだオンラインでのアイスブレイクや関係づくりについては、蓄積不足です。そこで、青木将幸さん著「オンラインでもアイスブレイク！」を参考に、いくつか体験して

みました。

後半のグループ実習とディスカッションでは、出てきた意見を A2 サイズのホワイトボードに書き出していきました。板書はオンラインでも効果的。その補足のレクチャーでは「グループプロセス」、つまりグループの成長や変化に従い、リーダーの役割も変わることをお伝えしました。

個人的には「内容がこなれていなかった」「短い時間に盛り込みすぎた」など反省もたくさんです。内容を絞って改善していきたいと思います。



■第3回「リーダーの役割」

朝廣和夫（JCVN理事長／九州大学芸術工学研究院環境デザイン部門）

ボランティアの活動を担う現場リーダーは、作業の進行、挨拶、受付、道具の管理、初心者への指導など、いつも大忙しです。リーダーに資質は必要なのか。どのような役割が期待されているのか。そもそもリーダーとは1人で担わないといけないのか。など、このような疑問に答えることを念頭に講座を進めました。

プログラムの内容は、オンラインでありながらも少人数の参加のメリットを活かし、お互いの名前（ニックネームなど）を覚えるアイスブレイクを行ったり、「リーダーのイメージ」、「リーダーの役割」について個人で考え、シェアする参加者と共に考える「講義+ワークショップ」形式で実施しました。

ワークの後には、意図開きを行い、リーダー論で紹介されているリーダーシップモデルを紐解きながら、その考え方のポイントを学びました。基本的にリーダーには資質は必要なく、学べば誰でもできること。リーダーシップは役割であり、チームで分担して進めること。あとは、どのようなタイミングで、チーム内でコミ



ュニケーションを図り、課題の把握、対応の検討、指示、先の作業を考え動けるか。そのようなことがポイントです。

参加者からは、「実習を入れての進め方はよかった」「具体的な例をたくさん示してくださり参考になった。」「提供いただいた資料のリーダーの役割等図解はわかりやすい」「雰囲気が良い」「会の進行、雰囲気作り、とても参考になりました」という良かった感想をいただきました。一方で、「今回は考え方の話だったので、面白かったけれど、実践に落とし込んでいくところが想像しにくかったかな」という声もいただきました。

■第4回「ボランティアと地域との関係」 ～コンポストを活用した持続可能な暮らしづくり～

平 由以子（JCVN理事／NPO法人循環生活研究所／ローカルフードサイクリング㈱）

地域での環境保全活動においては、活動への認知と理解を推進し、参加を誘致していくことが継続の鍵になります。本講座では、地域とのつながりを考えボランティアとリーダーとの相互理解について考えるワークについて、コンポストを軸に行いました。

まずは、簡単なアイスブレイクの体験と意義づけのあと、簡単な事例紹介を行い、コミュニティのつながりを考え、地域活動の多様性を理解する「つながりワーク」を行いました。2回のグループワークの後、シェアにはマイクロソフトのJamボードを活用しました。次に、地域活動におけるリーダー・参加者双方のメリット・デメリットや立場を理解するため、4つのグループに分かれ、ボランティアをもつリーダーの利点／抱える問題／参加者・ボランティアの利点／離れる要因について話し合い、シェアしました。



「一つの視点だけでなく、様々な視点から地域のつながりを考えることができた」

「地域資源のつながりワーク。開いた気持ちになり、持てる資源を考えるワークだった」などのご意見をいただきました。

オンラインでの開催で、予定より時間が短かく感じたこと、タイトルと内容に差があったと感じた参加者もいたので、進め方や落とし込み、内容についても再度検討していきたいと思っております。

■研修参加者感想

北永佳奈（循環生活研究所）

オンラインの会議では打ち解ける機会もないまま時間が終わってしまうこともあります。ボランティアリーダー研修の講師の方々はどの方も雰囲気づくりがうまく、話し易い雰囲気をあつという間に作ってしまうスキルに日頃の力量を見せつけられました。そんな雰囲気の中で講座を行えたので各地から集まった参加者のリアルな声が聞け、それぞれの現場での様子が手に取るように感じられました。

初回、2回目の講座では現場ですぐに使える、日頃は忘れがちだけど大事なこと、これができるいれば現場の効率がグッとアップするアイデアを実践に基づき教えていただきました。3回目、4回目の講座ではリーダーとしての心構えや現場へ行く前の準備を教えてくださいました。現場リーダーというのは挨拶やミッションの指示など、コミュニケーションの基礎が

試されるということを改めて知り、日々の行いから気をつけていくことが求められると感じ、気が引き締まる思いになりました。相手の立場に立って想像するワークではワクワクを感じると共に、地域との繋がりを強固にすることが団体としての強みになると改めて感じました。

今回の講座を経て、今回学んだことを頭に入れておくだけで突発的なことが起こっても今後慌てずに対処できそうです。オンライン開催で、各地で活動される方々と出会えたことで、それぞれの悩みや学びを聞いたことや同じ悩みを持ち自分にはなかった考えを知ることができ、とても刺激になり明日からの活動に繋がられそうです。一回一回の試みと反省を次回に活かしていくことを意識して活動したいと思います。

■アンケート結果など

朝廣 和夫（JCVN理事長／九州大学芸術工学研究院環境デザイン部門）

4回の研修について、参加者数、オンラインアンケートを踏まえ「ふりかえり」をしたいと思えます。アンケートは講座の後に無記名でお願いしました。質問内容は「満足度」、「良かった点等」、「わかりにくかった点等」、「ご意見・ご提案等」の4つです。

● 少人数で充実した研修・広報に課題

本研修は募集定員を15名としておりコミュニケーションを行う形式としました。参加者数は各回6～14名でした。定員の半数に満たない研修が3回に上り、広報に課題を残しました。今回は、試行的な取組でしたが、今後、継続し、リピーターを増やすとともに、人づてに「いいね」と広がるよう力を入れたいと考えます。

● 比較的高い満足度

満足度は6点満点で平均4.86～5.5となりました。今回、4名の講師が、それぞれの技量・内容で実施しました。良かった点は、上述の北永様の感想に凝縮いただいておりますが、その他にも、「信頼できる団体の主催なので、参加をためらうことがなかった」、「道具の説明のポイントが分か

った」、「BTCVからJCVNにいたるワーキングホリデーの系譜を改めて確認できた」、「最初から参加したかった」、「次回から、参加したい」などの声もいただきました。

● 少なくない、分かりにくさ

これは講師側の運営の問題もありますが、オンラインを用いた技術的な難しさについて指摘されました。「掲示したフリップがバーチャル背景でみづらい」、「ギャラリービューの使い分け」など、指摘すると多くあったのだと思います。

また、講座は、考え方は学べるが「実践に落とし込んでいくところが想像しにくかった」という指摘がありました。オンライン講座の限界と共に、今後の研修で工夫が求められる点です。

さらに、今回、ワンコイン500円の支払いをPeatix（ピーティックス）というサイトをお願いしたため、講座にアクセスできない方もおられたのではという指摘をいただきました。

最後に、「このような講座とは思わなかった。」という mismatches の声も数名おられました。今後、適切な情報の提供に心したいと考えております。

連載

■ 台湾の保全活動 第1回「ウシと一緒にコメづくり」

ファン ポウエイ (Huang Powei, 2015~2018 九州大学大学院 (朝廣研究室)、2018~2021 山村塾職員、2021~台湾在住)

島国として森林・山地が6割を超え、台湾と日本は地理的によく似ています。400年前までは先住民が山を焼き、畑を開拓して暮らしていました。その後、日本、清国、ヨーロッパからの移住者が近代化を持ち込みました。

今回は台湾の北東に位置する、海に近い新北市貢寮(ゴンリャオ)区の棚田保全活動を紹介します。貢寮は年間雨量が多い地域です。大雨が降り続けるとひびが入り乾いた田んぼが崩れるため、大型農機を入れずに年間浸水し、湿田として維持されています。そのおかげで、タウナギ、メダカ、ドジョウ、ミナミイシガメは一年中、田んぼで過ごせます。また、自家採種と外から農機や土を入れないおかげで、ジャンボタニシの侵入はいまだになく、マルタニシが住む昔のままの生態系が残っています。

貢寮の山間部は台湾の他の山村と同じく、過疎高齢化が進んでいます。生態系サービスを維持するため、2011年からNPO「人禾環境倫理基金會」が「貢寮水梯田保育計画」を展開してきました。水梯田(一年中浸水する棚田)の持続的耕作と耕作放棄地の手入れ、生物調査、百姓の知恵を活かす取り組み等の保全活動を実践しています。また、2014年に地域住民が農企業「狸和禾小穀倉」(マングースとイネの小さな穀倉)を設立し、農民との連携や現地調査を担うなどして、農民の参加を集めてきました。

貢寮の棚田は狭く、水を張りっぱなしです。水田としてだけでなく、水牛の放牧地としても湿地の生態系が守られています。地域には水牛と小型耕うん機を使って米づくりを行う農家が4軒あります。私は2021年10月に、「牛耕文化伝承ワークキャンプ」に参加しました。2日間のコースで、初日に水牛がいる営みを教えてもらい、クアアカッア(角は幅広いを意味する)という水牛(♀)とのアイスブレイク(好物を集め、エサやり)、2日目は田んぼでつまず



クアアカッアは妊娠していたにもかかわらずバリバリ仕事

きながら田んぼに残った稲株を起こしました。1反弱の耕うん作業を水牛1頭と参加者10人で3時間かけて、なんとか終えました。

参加者は20~60代、学生、会社員、移住検討中の方、過去経験者など幅広い属性でした。運営側は、「狸和禾小穀倉」代表の張さん(元小学校教諭)が百姓の営みを紹介、スタッフの簡さんがコーディネーター、劉さんが植物(水牛の好物)の解説をされていました。そして、10年前にUターンした蕭(シヨウ)さん(60歳)に、鋤の使い方から水牛への指示まで、牛耕の流れを指導いただきました。

今回の活動について振り返ってみます。まず考慮すべき点として、水牛は暴れる恐れがあること、そして幅広い参加層とのコミュニケーションが必要だったことです。水牛と安全に作業するため、いきなり作業に飛び込まずに、初日は参加者となじむ時間が作られていました。そして、技術指導者が常に近くで見守り、事故の防止に取り組んでいました。他にもスタッフ3名が進行や解説などに携わるなど、手厚い運営体制だと思いました。牛耕文化の継承を通じて棚田保全を行うというアイデアや日本とは異なる雰囲気での運営体制が興味深かったです。

(参考) 牛耕の映像

<https://www.youtube.com/watch?v=uXEsVTaGniE>

■事事故例コラム（7）

志賀 壮史（JCVN 理事、NPO 法人グリーンシティ福岡理事）

野外体験やボランティア活動に関連する事故事例を収集しています。前回（2020年9月）から期間が空いたので抜粋して挙げてみます。

* * * * *

2020/10/24 大阪万博記念公園で倒木

（日テレ NEWS24 2020年10月25日）

万博記念公園の遊歩道で高さ7m 直径30cmの木が突然倒れ、40代男性の頭に当たった。

12/11 宝満山で70代女性が滑落死

（KBC九州朝日放送 2020年12月12日）

筑紫野市の宝満山で70代女性が滑落。山肌は枯れ草や泥で覆われ滑りやすい状態だった。

2021/2/20 見守りボランティアはねられ死亡

（読売新聞オンライン 2021年2月20日）

広島県福山市の通学路で登校の見守りをしていた70代男性が、70代女性運転の車にはねられる。

2/21 足利で山火事 72世帯に避難勧告

（読売新聞オンライン 2021年2月23日）

栃木県足利市の山火事で避難勧告。同時期に東京・青梅市でも焚き火から山林へ延焼。

6/30 駐車場で倒木、車1台が下敷き

（日テレ NEWS24 2021年6月30日）

東京都港区の駐車場で高さ16mの木が倒れた。ケガ人はいなかった。

8/21 尾瀬ガイド協会 Twitter への不適切投稿

（NHL 群馬 2021年8月23日）

尾瀬ガイド協会の公式 Twitter で、「アフガニスタンに比べれば幸せ」等の不適切な投稿。

10/12 森林公園のボランティアが死亡事故

（広島ホームテレビ 2021年10月13日）

広島市森林公園の70代男性ボランティアが電動のこぎりで右足を切り、死亡。

* * * * *

抜粋した中に2件、倒木事故があります。大阪万博記念公園と東京都港区の事例。どちらも命にかかわる事故でなく幸いでした。ただ、報道では取り上げられる以外でも、倒木や落枝の事故は各地で起きているので注意が必要です。

登山の事故について。子どもから年配の方まで

親しまれる宝満山で起きた事故です。こちらの70代女性は登山好きの知人も多い方だったと聞きました。山に慣れた方だったはず。慣れた人、慣れた山であっても事故のリスクがあることを肝に銘じておきたいと思います。同月26日には鳥栖市の九千部山でも40代男性の滑落死事故が起きています。

見守りボランティアは、小学生の登校時間に交差点などに立ち、旗を振って誘導する活動です。被害者の男性は約10年にわたって活動してきたこと。信号のない丁字路で右折する際の事故で、運転していた女性は「朝日が目に入り前が見えにくかった」と説明していたそうです。

栃木県足利市の山林火災は2月21日に出火し3月1日に鎮火、焼失面積は167ヘクタール。出火原因は「たばこ」と推定されています。また23日には東京都青梅市で住宅から出火、お寺や山林が燃える火事になりました。こちらの出火原因は「庭のたき火」で、水で消したと思っていたら消えてなかった、とのこと。ちなみに23日は関東甲信全域に乾燥注意報が出ていました。

尾瀬ガイド協会の Twitter の件は、社会的なイメージを損なう出来事でした。SNS やブログ、対面での会話など、言葉づかいやコミュニケーションについてお互いに確認や注意しあえる仲間やスタッフが大切だと感じました。ただ、尾瀬ガイド協会の事件後の対応やウェブサイトでの情報開示については見習うべき点が多いと感じます。

広島市の森林公園での死亡事故について。報道には詳しい情報はありませんでしたが、地元の森林ボランティア団体が発信するところでは、電動丸ノコで右足太ももの付け根を負傷する事故だったそう。悲しい事故を減らすためにも、どうか皆さんも作業時の姿勢や服装をあらためてご確認ください。

お知らせ

イベント・ボランティア情報

●Web会誌への切り替えのお願い

これまで印刷物で、この「CONSERVATION VOLUNTEERS」を25回、発刊してきました。お世話になった皆様の元に紙媒体でお届けし、JCVNの活動の一端をお伝えしてまいりました。

さて、次号、2022年度から本会誌は、デジタルPDFファイルとしてWebに掲載し、メルマガやSNSで皆様に発刊のご連絡をさせていただくことといたしました。

バックナンバーを含め、フリーで拝読いただけますので、今後とも、よろしく願いいたします。

そこで、デジタル版への移行に際し、2つ、皆様方をお願い事です。

◆ アンケートのお願い

今後、さらに会誌を充実させるため、これまでのご感想、ご意見について、右のQRコードのGoogleフォームよりお聞かせください。質問は4つ程度で、簡易な内容です。よろしく願いいたします。



◆ メルマガご登録のお願い

本会報は年3回程度の発刊を予定し、JCVNメンバーより、環境保全に関する活動、リーダー研修の話題をお届けします。メールでのご連絡をご希望いただける方は、上述のQRコードの最後の質問に、お届け先のメールアドレス、ご所属、ご氏名を記入し、お申し込みをしてください。

なお、個人情報の登録が好ましくない方は、メールアドレスのみでも構いません。これらの個人情報は、会誌の発行、メルマガの送付のみに使用いたします。退会をご希望の際は、いつでも、右記の事務局のメールアドレスまでご連絡ください。

●ボランティアリーダー研修@オンライン2022について

好評をいただきました「ボランティアリーダー研修@オンライン」は2022年度も前期4回、後期4回の全8回の開催を目指し、準備をしてまいり

ます。ぜひ、上述のメルマガにご登録いただき、ご参加・ご利用いただきたくお願い申し上げます。

●JCVNの仲間を広く募集しています！

あなたの支援が、「いつでも」「どこでも」「だれでも」できる環境保全活動をめざした団体のネットワークづくりの力になります。入会申込書をご送付いたしますので、事務局までお問い合わせください。JCVN理事をはじめ、環境保全活動の専門家のノウハウが詰まった会報が、年に3回お手元に届きます！また、メーリングリストでもJCVNが開催・協力するイベント情報等を随時ご案内いたします。活動への寄付も受け付けています。環境保全団体のネットワークづくり、リーダー育成支援のため、皆さまのご協力をお待ちしています！

- ・個人正会員（¥10,000／年）
- ・個人賛助会員（¥5,000／一口以上）
- ・団体正会員（¥20,000／年）
- ・団体賛助会員（¥10,000／一口以上）

[会費・寄付振込口座]

番号：01760-9-122407

名称：日本環境保全ボランティアネットワーク

CONSERVATION VOLUNTEERS 25

■発行日：2022年3月24日

■発行頻度：年3回

■発行：特定非営利活動法人日本環境保全ボランティアネットワーク（略称：JCVN）

■事務局：〒810-0022福岡市中央区薬院4-5-2-202
tel/fax: 092-215-3966
e-mail: jcvn@greencity-f.org